

徳島県経済グローバル化対応基本方針（案）について

1 策定の背景・趣旨

T P P 1 1 などにより，貿易の自由化が急速に進展する中，「東京2020オリンピック・パラリンピック」をはじめ，2025年の「大阪・関西万国博覧会」やその先を見通し，本県産業の成長化を図っていくことが必要です。

このため，経済グローバル化に対峙し，「守り」を固めて，「攻め」へと転じ，東京オリ・パラ等のレガシー効果も創出しながら，経済効果の本県に確実に波及させていくための「方向性」や「考え方」を明らかにし，「徳島ならではの」強みを最大限に活かした「攻め」の施策を県を挙げて推進していこうとするものです。

2 基本的考え方

本県の「食」や「自然環境」など，「徳島ならではの」の「強み」を活かし，「施策の集中展開」や「人材・ネットワークづくり」など5つの視点を踏まえながら（3）の施策体系により，県を挙げて「攻め」のグローバル対策を推進します。

（1）世界に通用する徳島の「強み」

【食】

徳島を代表する果実「すだち」やG I 登録された「木頭ゆず」，「なると金時」，「阿波尾鶏」，「鳴門わかめ」など，**「多種多様で安全・安心・高品質な農畜水産物」**

【自然環境】

日本三大河川の「吉野川」，世界最大規模の「鳴門の渦潮」，桃源郷「祖谷溪」など，**「全国的な知名度を有する多くの自然・観光資源」**

【伝統・文化・産業】

400有余年の伝統芸能「阿波おどり」，ジャパンプルー「阿波藍」，「四国八十八箇所霊場と遍路道」など，**「受け継がれてきた伝統や技術」**

【国際ネットワーク】

「東京オリ・パラホストタウン」ドイツ，カンボジア，「ラグビーWCキャンプ」ジョージア，国際線ターミナル「徳島阿波おどり空港」，クルーズ船が寄港する「徳島小松島港」など，**「世界各国との交流」**

（2）5つの視点

①「東京オリ・パラ」や「大阪・関西万博」等を見据えた施策の集中展開

TurnTableからの「情報発信」や「輸出促進対策」，「インバウンド誘客」など，グローバル化の経済効果の本県に確実に波及させるための**「施策を集中展開」**

②グローバル化に柔軟に対応できる人材・ネットワークづくり

経営感覚に優れた「担い手」や，外国人旅行者や労働者の「コーディネーター」，本県の食や文化を世界に売り込む「推進母体」など，**「人材やネットワークづくり」**

③次世代テクノロジーの活用

I o T ， A I 等のがもたらす第4次産業革命による「匠の技の伝承や省力化」や光ブロードバンド環境を活かした「情報通信産業の集積」など，**「最先端技術を活用した競争力強化」**

④世界から選ばれるとくしまづくり

外国人から「旅行先」や「働く場」として選ばれる「とくしま」づくり，地域に「異文化」や「多様性」を受け入れる体制構築など，**「多文化共生社会の実現」**

⑤食の安全安心

徳島の食を世界へ広げるカギとなる「GAP」，「G I」等の取得推進や，「エシカル消費」に関する教育の推進など，**「一歩先を行く「食の安全・安心」対策の展開」**

(3) 基本方針の体系

